

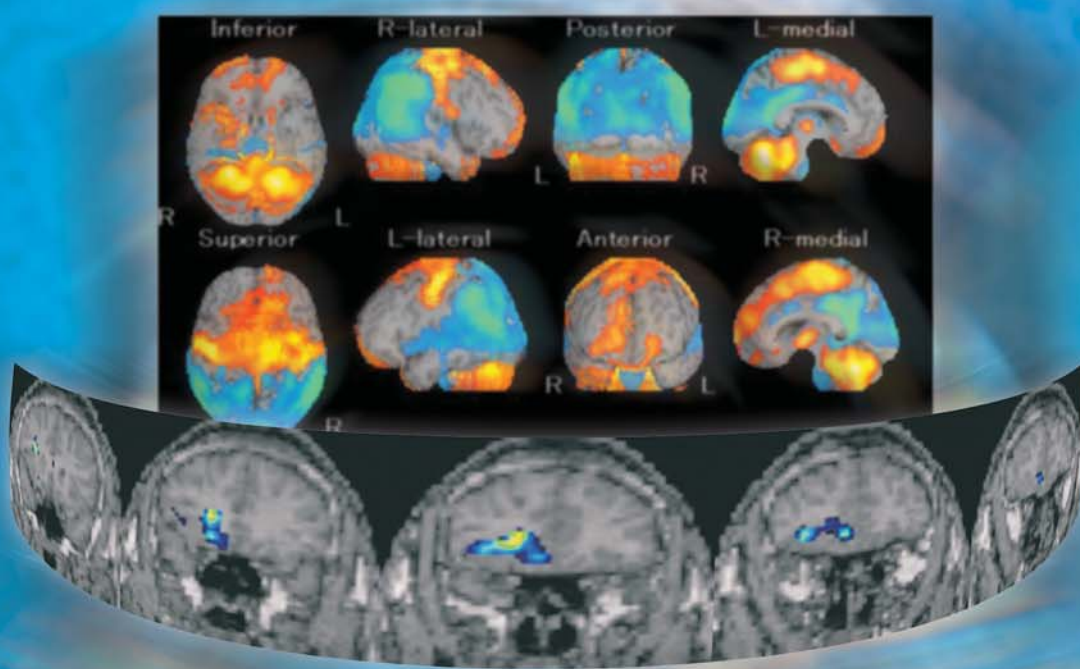
# 第66回社団法人日本脳神経外科学会総会 ランチョンセミナー (LS-16)

開催日時／平成19年10月4日(木) 12:00～13:15

開催場所／グランドプリンスホテル新高輪 I会場(国際館パミール1F 旭光)  
〒108-8612 東京都港区高輪3-13-1

座長 栗栖 薫先生 広島大学大学院 脳神経外科学

テーマ **SPECT解析画像の治療への応用**



演題・演者

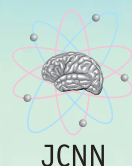
## もの忘れ外来の画像診断

奥村 歩先生 木沢記念病院・中部療護センター 脳神経外科

## てんかんの外科的治療とSISCOM

松田 一己先生 独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター 第二脳神経外科

共催: 第66回社団法人日本脳神経外科学会総会  
日本脳神経核医学研究会  
富士フィルムRIファーマ株式会社



FUJIFILM  
富士フィルム RIファーマ株式会社

座長

栗栖 薫 先生 広島大学大学院 脳神経外科学

## SPECT解析画像の治療への応用

### 「もの忘れ外来」の画像診断

演者 奥村 歩 先生 木沢記念病院・中部療護センター 脳神経外科

少子高齢社会を迎えて、高齢者の日常生活で見られてくる認知機能の低下の中から治療可能な病態を的確に抽出し、治療していくことが臨床家に求められている。「もの忘れ外来」とは、認知症の早期診断・鑑別診断を大きな目標とした外来ではあるが、「**treatable dementia**」を確実に診断して治療することも重要である。

高齢者の「うつ病」は認知症に非常に似た症状を呈し、「うつ病性仮性認知症」と呼ばれている。「うつ病性仮性認知症」はSSRI等の適切な投与により根治率が高いため、見落としはならない「**treatable dementia**」である。しかし、高齢者の「うつ病」は認知障害や身体的訴えが前面に出て、若年者の「うつ病」のように「抑うつ気分」がはっきりしないため、その診断は一筋縄ではいかない。本講演では「うつ病性仮性認知症」「特発性正常圧水頭症」などの「**treatable dementia**」と「アルツハイマー型認知症」「レビー小体型認知症」などの代表的な認知症との鑑別に対する、SPECT eZIS解析画像の有用性について概説する。

SPECT eZIS解析画像は、脳神経外科の日常診療において、頭痛やめまいなどの身体的な不定愁訴を呈する症例や、脳卒中後遺症後にリハビリに対する意欲の減退した症例の中から「うつ病」に「気づく」ツールとしても有用である。

### てんかんの外科的治療とSISCOM

演者 松田 一己 先生 独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター 第二脳神経外科

てんかん外科ではてんかん焦点同定の精度が発作予後を左右する大きな要因となるが、臨床・脳波学的検索と共に画像診断が重要な位置を占めている。中でもてんかん発作と直結する発作時の脳血流SPECT所見に期待が寄せられるが、検査自体の困難さに加え、得られた所見が発作時の経時的変化のどの過程を反映しているか、所見の評価において発作間欠期との全脳的に客観的な比較評価がなされているか、などの問題点が存在する。この最後の課題に対し発作時の血流増加域を客観的にとらえる評価法として **Subtraction Ictal SPECT Coregistered to MRI (SISCOM)** 解析が開発された。これは発作時および発作間欠期SPECTを患者本人のMRIに重ね合わせ、両方のSPECT像を平均カウントで正規化しサブトラクションした後2標準偏差以上の領域を本人のMRI上に表示するものである。この解析法によるてんかん焦点同定について2003年7月から2006年3月の期間に全国10施設でてんかん外科手術患者を対象に前方視的な検討がなされた。123例の解析対象において視察的な評価による診断に比較してSISCOM解析では評価者間の信頼性が高く診断精度の向上が確認された。今回はこの多施設共同研究の結果や解析評価に際しての課題について報告する。

### About JCNN 日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていきたくと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内  
Tel:03-3508-1214 Fax:03-3508-1302 E-mail:infojcnn@convention.co.jp



JCNN